



# 羅針盤

2015年度 第4号  
都立豊多摩高等学校  
進路図書部

2015（平成27）年5月30日発行

## 学ぶことの面白さ

君たちは、勉強する意味を見失ったりしないだろうか。新聞に次のような投書を見つけた。

### ○決めた 私はもう逃げません

高校生 ○○ ○○（山口県 17）

私は勉強が嫌いだ。将来、何の職業に就くかも分からないのに、勉強をする意味が理解できない。そんな時間があるなら、寝ていたい。

嫌なことから逃げ、勉強からも逃げた先に出合ったのは、通信制高校だった。自分の未来の行く末を考えて、逃げることはもう終わりにしよう。そう誓った場所でもあった。

今思えば恥ずかしい。逃げ場と呼んだそこにいるのは、私よりもずっと悩み苦しみ、それでいて私よりはるかに強い人たちばかりだった。私は全日制で学ぶべきだったのではないか。また弱気で逃げ腰になっていた。

一度決めたじゃないか。逃げることは終わりにしよう。私はここで、やりたいこと、夢を見つければいい。何かをつかむことが出来たなら、逃げる私からきっと成長できるだろう。

朝日新聞2015年5月15日朝刊

### ○恩師との再会

○山○子 57歳 主婦 神奈川県厚木市

今から39年前、K先生は、岐阜県立G高校3年5組の教壇に立ち、悲痛な表情で、「残念ながら、○山君は学校を辞めることになった」とおっしゃった。

私たちは、学校群制度一期生。G高校は進学校で、皆が勉強熱心だった中、○山君は「勉強する意味がわからない」と孤立していった。休み時間、彼はいつも窓の外を見ていた。

46歳の時、彼は一念発起し、通信制で学び直しを始めた。そして高校の卒業証書を手にしたとき、「やっと学ぶことの面白さを知ることができた。K先生にお知らせしたい」と強く思った。

それから10年を経た今年4月、彼は恩師との再会を果たした。

K先生は82歳。昨年、倒れられたが、現在は回復されつつあるとのことだった。病を経てなお、中退した教え子のことを覚えていらして、「良い死に土産ができた」と静かにほほ笑まれた。

そして5月、私たちは結婚29周年を迎えた。

東京新聞2015年5月18日朝刊

私たちは、「勉強する意味」を見失うとき、「何のために勉強するのか」という疑問の出し方をしているのではないか。だとすれば、立論の仕方に錯誤があろう。大学合格のためだけの勉強は、たとえ合格したとしても、目的達成の瞬間、価値がなくなってしまう。無意味になることが自明の案件に拘泥して隠忍努力するのは、刑務所の強制労働に似ている。ドストエフスキーは、シベリア流刑体験に取材した小説の中で、苦役の苦役たる所以は、労働の厳しさよりも「それが強制された義務で、<sup>むら</sup>咎の下ではたかなければならない、ということにある」（『死の家の記録』（工藤精一郎訳、新潮世界文学11、1968）26頁）と述べている。労働内容は、当時の農作業より軽いにもかかわらず、目的や意味の分からない強制が、その軽重以上に、（ウヘ）

## 夏季講習についてのお知らせ

5月28日（木） 3年生に対して開講予定を発表（教室掲示） 申込書配布

6月13日（土） 申し込み締め切り（担当の先生へ）

1・2年生対象は後日連絡

耐えがたい苦痛を呼び込むという。勉強も同じである。外発的な目的の絶対化は、大きな物語でも小さな物語でも、いつも人間を傷つける。

そうならないためにはどうすればいいか。厚木市の○山さんの夫が、その答えにたどり着いている。そう、「学ぶことの面白さ」である。

学習不振に喘ぐ生徒から「古典は何のために勉強するんですか」と訊かれたことがある。斜しやに構え、論駁ろんぱくしてやろうという姿勢がかいま見えた。勉強を拒絶する理屈を手に入れようとしていると思った。適切な応答が「将来のため」や「受験のため」でないのは明白だった。不用意に口にすれば、「それなら私には必要ない」と断じられる。つけこまれないために、本質的な筋道を考えた。…何の役に立つかは分からない、好奇心に駆られていろんなことを学び続ける、勉強することそのものが目的だ…。あるとき私は、厚木市の○山さんと同じことを考えていたと思う。「学ぶことの面白さ」である。案の定、腑に落ちない様子だったが、が、烈しい反論もしてこなかった。

その生徒が、一浪のすえ合格報告に来たときのことが忘れられない。憑き物が落ちたような晴れ晴れとした表情になっていた。「古典はどうだった？」と聞いたら「楽しかった」と応えた。浪人中の勉強で古典を学ぶことの面白さに目覚めたようだ。話は弾んだ。現役中に目覚めなかったのは残念だったが、とてもうれしかった。

英語も数学も、あとから振り返れば、あのとときのあれが役に立ったという固有の答が見つかる。が、高校時代にそれを予見することはできない。人生は予定調和ではない。勉強もスポーツも趣味も芸術も、その最中は闇雲に挑戦し続けるしかない。

予定調和=ここでは、あらかじめ結果が決まっているという考え方。

アップルのスティーブ・ジョブズは、自然科学と人文科学の交差したところに自分の生きる方向性があると感じていたという。しかし、そのために人文科学に興味を持ったわけではない。

音楽を聴いたりゲームに熱中するとき、「何のために…」なんて考えない。心地よいから聴き、楽しいから熱中する。結果として、音楽評論家になったり、クリエイターになったりすることがある。勉強だって同じである。その行為に内在する楽しさがある。将来のためでも、合格のためでも、進級や点数のためでもない。まして、ご褒美のためじゃない。「…のために」という動機付けは、そのままやらない理由に流用できてしまう。勉強そのものに意味が内在していて、そのために勉強する。それが「学ぶことの面白さ」である。

簡単に納得できないかもしれない。が、「学ぶことそのものの面白さ」を味わおうという姿勢が、君を学力不振の悪循環から救ってくれることがあるはずである。

## 今年度のチューター紹介

### 鈴木靖人 (60期生 電気通信大学卒業)

高校生に伝えたい事。

新学期が始まり、早2ヶ月、そろそろ学校生活に慣れた頃でしょうか。高校生活の中で大切な事は、勉強はもちろん、部活などの課外活動も重要です。夏休みまでに自分のリズムをうまく作り、より充実した高校生活を送ってほしいと思います。何かに迷ったりつまずいた時は周りの皆で支え合い、励まし合って、是非最も輝いている自分を見つけ出して下さい！！

### 米盛美砂 (65期生 上智大学文学部国文学科2年)

大学では、広い時代にわたる日本国内の文学の勉強をしています。高校在学時代は、放送部と天文部を兼部しており、部活動に重きをおいて、楽しく過ごした3年間でした。

目の前の学校生活を全力で取り組みながら、すきま時間を有効に活用して、高校生としての時間を大切に活かして下さい。

### 猪川晃俊 (64期生 首都大学東京都市環境学部都市環境学科建築都市コース3年)

大学では、主に設計の授業に力を入れていて、図面を描いたり、設計した場所の空間の検討をする模型を作ったりして、大学の製図室にこもる日々が続いています…。

勉強する時には頑張って勉強して、だけど学校行事などには思い切り楽しんで、メリハリのある高校生活を送って下さい。

\*チューターには、授業のある土曜日の午後、会議室で生徒の勉強の相談に乗ってもらえます。